

公園

2023.5.16

3月下旬の春休みのことだった。通常より、少しは早く帰ろうと考えた。そうしないと、教頭先生も帰ることができない。いつもとは違う時間帯での帰路である。見える景色も違っていた。まだ明るい。

家に着いた方がいいが、さてどうするか。とりあえず、食器洗いとお風呂洗いのルーティンをこなす。テレビを見る気にはなれない。せつかく時間があるのだから、本でも読めばいい。本当は、やりたいこと、やるべきことがある。だが、そういうものに限ってやりたくない。つつい逃げたくなる。逃避である。

運動でもするか。気候も、だいぶ春らしくなってきた。日中は、穏やかな陽気である。着替えて外に出る。意外と寒い。体を動かすからいいか。近くの公園まで歩いていく。この公園にはグラウンドもあり広い。

公園に着くと、走り出す。軽く走ってから、足首をまわしたり、アキレス腱を伸ばしたりと準備運動をする。アキレス腱が伸びない。固まっている感じである。昔は、こうではなかった。それほど、ここ数年は運動というものをしていない。

1時間近く、この公園内を走ったり歩いたりする。その間、様々な人たちがやってくる。自転車でやってきた小学生たち。小学生のお子さんに、自転車の乗り方を教える母親。帰りは二人乗りで颯爽と帰っていったのはどうなのか。ウォーキングの女性もいる。姿勢がよい。そして、多いのは、愛犬を連れた人たちである。自然と、愛犬談議に花が咲く。

同じようなところをぐるぐるしていると、普段は興味を示すことのない草木にも目がいく。よく見ると、おもしろい。花はきれいである。当たり前なのに気づかされる。走るのにもバリエーションをつけたい。ダッシュを取り入れる。思ったよりは走れる。人には見られたくない。

この公園には、我が家の二人の子どもたちもお世話になった。今は、一人の寂しい男がお世話になっている。わずか1時間という時間だが、公園内の人の出入りは忙しい。それぞれ、滞在時間は、そう長くはない。1日の中でも、時間帯によって、人の様子は変わるだろう。夕方は、何だかゆったりとしている。いい時間である。

公園に通ったのは、わずか4日間だった。4月になると、いつもの時間帯に帰るようになった。すでに暗い。時間があれば、あの4日間のように、ゆったりと過ごすことができるのだろうか。体は疲れたが、4月に向けて、充電することができたような気がする。公園の有難味もわかった。ただ、以前とは違って、走ると、疲れが次の日に出てしまうのには閉口した。数日間、走ったくらいでは、動いていた頃の体には戻らない。これが、歳というものか。